

27 年度指導方法の課題分析と具体的な改善策及び補充指導などの計画 教科 _____ 理科 _____

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験、観察の結果を予測し、なぜそう考えるのか、自分の考えを説明できるようにする。 ○ 実験、観察とその考察を通して、自然事象を理解し、言葉で表現できるようにする。 ○ 自然現象を理論立てて考え、順序立てて表現する工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の興味・関心、授業に対する意欲をさらに高めるための教材の工夫が必要である。 ○ 課題や実験結果の予想についてワークシートに記入させ、自分の考えを持たせるようにする。 ○ グラフ化したデータと図解などを、どう読み取り、どのようにまとめるかまた、文章にどうあらわすか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の内容を含む身のまわりで起きている理科学的現象を授業の中に取り入れ理解を深める。 ○ 課題を通して、問題を解決できる力を身につけ、それを活用できる具体的な場面をつくる。 ○ 生徒の理解度・達成度を知るために単元ごとに練習問題に取り組みせ、補充的な学習を積み上げさせる。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都の学力向上を図るための調査の結果を見ると、「教科の内容」については、都の平均に対して上回っているので、十分な理解度があると思われる。「読み解く力」では、取り出す力と解決する力は都の平均を上回ったが、読み取る力が下回った。この点について改善したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験レポートでは考察をしっかり書かせることで、またテストなどでは論述する問題を入れて、意見をまとめる力を育てる。 ○ 普段の授業では、実験結果を分析して考え、発表をおこなう場面を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを詳しく実験レポートやノートなどにまとめる。 ○ 考える時間、話し合う場面を取り入れていく。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 27 年度 全国学力・学習状況調査から、本校の理科平均正答率は全国、および都の平均を上回る結果であり、全体としてはおおむね良好である。しかし領域別では、物理領域での正答率が特に低く、改善が必要である。また、記述式の問題の一部において、無回答である割合が高いため改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物理領域の改善については、観察・実験によって得られた結果から、規則性や法則性を見いださせる授業の回数をさらに増やす。また、日常生活と関連性のある物理問題を解かせ、公式がどのように適用できるのかを説明する。 ○ 定期テストやワークシートにおいて、記述する部分を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理解に時間を要する生徒への補充授業を継続する。また、互いに教えあい、学びあう授業を取り入れる。 ○ 発展的な内容として、教科書の内容を超える話題を単元の終末に取り上げ、学習したことと日常生活の関わりについて考えさせる。